

新型コロナ、自然界発生より研究所から流出した可能性高い=C I A

1/28 ロイター



【ニューヨーク 25日 ロイター】 - 米中央情報局（CIA）の報道担当者は25日、中国で起きて世界に広がった新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）について、CIAは自然界での発生よりも、研究所から流出した可能性の方が高いと評価していることを明らかにした。

駐米の中国大使館の報道担当者はロイターに出した声明で、CIAの結論は「誤解を招く」とし、「実在する証拠」に基づくものではないと批判して、「ウイルスの発生源は複雑な科学的問題であり、科学者や専門家は政治家に判断されるのではなく、厳密で綿密な科学研究を通じて答えを見つけ出すべきだ」と主張した。

中国の武漢ウイルス研究所からの流出が新型コロナのパンデミックを引き起こした可能性が高いとの見方が出ていることに対し、中国側はこれまで信ぴょう性がないと反論してきた。

CIAは数年間にわたり、新型コロナの起源についての結論を出せないと説明してきた。しかし、ウィリアム・バーンズ前長官がバイデン前政権末期の数週間にCIAのアナリストと科学者らにパンデミックが起きたことの歴史的重要性を強調し、明確な判断を下すよう求めたという。

CIAは「新型コロナのパンデミックの起源は研究に関連している可能性の方が高い」という評価について「確信度は低い」としており、依然として研究室起源と自然起源の両方

のシナリオがもっともらしいとの声明を出した。

C I Aが新型コロナの起源に関する新たな情報をどの程度収集したかや、新たな証拠が最新の評価を策定するのに用いられたかどうかは分かっていない。

C I A長官に就いたジョン・ラトクリフ氏は今月24日に議会上院で人事が承認された後、米保守系ニュースサイト「ブライトバート」のインタビューで、自身が最初に取り組む優先事項の一つは新型コロナのパンデミックの起源を公に評価することだと言及。その上で「私は、私たちの情報、科学、そして常識のすべてが新型コロナの起源が武漢ウイルス研究所からの流出を示していると確信している」と語った